

横浜市感染症発生動向調査報告 3月

《今月のトピックス》

- 風しんの報告数が多い状態が続いています。
30～40歳代の男性が中心ですが、50～60歳代の報告もあります。
(詳しくは横浜市衛生研究所ホームページ臨時情報の[風しん情報](#)をご覧ください)

◇ 全数把握の対象

〈3月期に報告された全数把握疾患〉

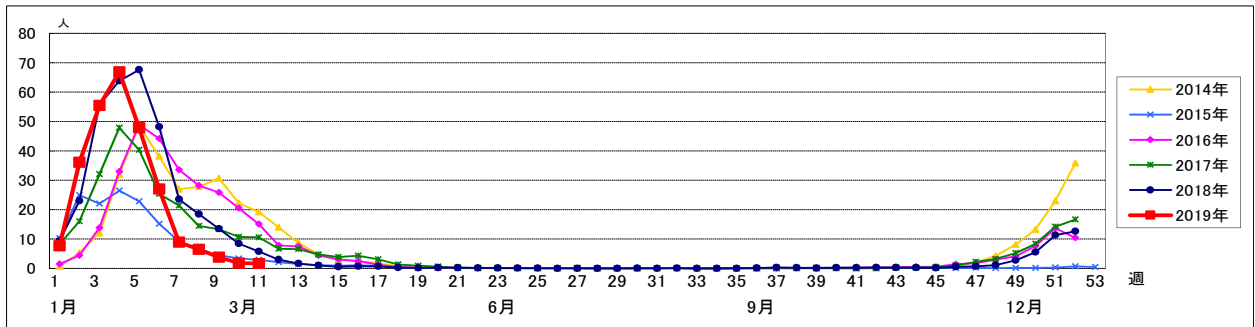
腸管出血性大腸菌感染症	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
E型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
A型肝炎	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
デング熱	1件	梅毒	4件
レジオネラ症	4件	百日咳	15件
アメーバ赤痢	5件	風しん	14件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	—	—

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157の無症状病原体保有者の報告が1件ありました。
- 2 E型肝炎: 感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 3 A型肝炎: 同性間の性的接触によると推定される報告が2件ありました。
- 4 デング熱: インドでの蚊からの感染と推定される報告が1件ありました。
- 5 レジオネラ症: 肺炎型の報告が4件あり、感染経路等不明でした。
- 6 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が4件、腸管および腸管外アメーバ症の報告が1件ありました。経口感染と推定される報告が2件、感染経路等不明が3件でした。
- 7 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 4件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 8 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 60歳代のA群の報告が2件ありました。
- 9 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 幼児の報告が1件(ワクチン接種あり)、90歳代の報告が1件(ワクチン接種不明)ありました。
- 10 侵襲性肺炎球菌感染症: 小児の報告が1件(ワクチン接種あり)、50歳代の報告が1件(ワクチン接種なし)、60歳代の報告が1件(ワクチン接種不明)、70歳代の報告が4件(ワクチン接種なし2件、不明2件)ありました。
- 11 梅毒: 4件の報告(早期顕症梅毒Ⅰ期2件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件)がありました。感染地域は国内3件、フィリピンが1件でした。感染経路はいずれも異性間性的接触で、性別はいずれも男性でした。
- 12 百日咳: 10歳未満では幼児が4件(ワクチン接種あり3件、不明1件)、小児が4件(いずれもワクチン接種あり)の報告があり、10歳代で5件(いずれもワクチン接種あり)、40歳代で1件(ワクチン接種不明)、50歳代で1件(ワクチン接種不明)の報告がありました。
- 13 風しん: 検査診断例14件が報告されています。20歳代4件(いずれもワクチン接種不明)、30歳代2件(いずれもワクチン接種不明)、40歳代5件(ワクチン接種なし2件、不明3件)、50歳代2件(いずれもワクチン接種不明)、60歳代1件(ワクチン接種不明)でした。男性12件、女性2件でした。

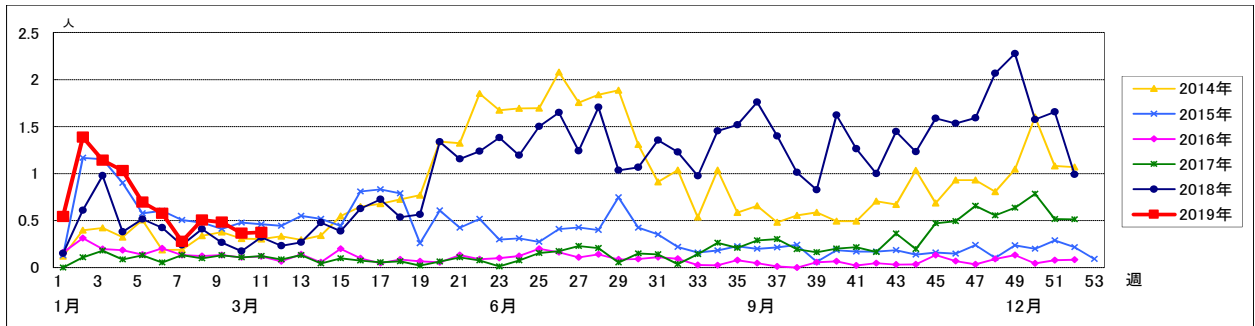
◇ 定点把握の対象

1 インフルエンザ: 2018年第48週に定点あたり1.07にて流行開始し、第51週に11.31にて注意報発令、2019年第2週に36.08にて警報発令されました。第4週に66.88でピークとなった後、第7週に8.91にて警報解除となりました。第11週は1.63となっています。

報告週対応表	
第9週	2月25日～ 3月3日
第10週	3月4日～ 3月10日
第11週	3月11日～ 3月17日



2 伝染性紅斑: 2017年第45週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。2018年第48週で2.07となり警報発令基準を上回りましたが、第11週では定点あたり0.38となっており、警報解除基準値を下回っています。



3 性感染症(2月)

性器クラミジア感染症	男性:23件	女性:21件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 2件	女性:16件
尖圭コンジローマ	男性: 8件	女性: 3件	淋菌感染症	男性: 8件	女性: 2件

4 基幹定点週報

	第9週	第10週	第11週
細菌性髄膜炎	0.00	0.33	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.67	0.67	1.00

5 基幹定点月報(2月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	—	—

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

3月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点42件、内科定点18件、基幹定点5件、眼科定点1件で、定点外医療機関からは8件でした。

4月8日現在、ウイルス分離23株と各種ウイルス遺伝子16件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(3月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	イ ン フ ル エ ン ザ	咽 (ア デ ノ 結 膜 感 染 症 熱)	胃 腸 炎	R S ウ イ ル ス 感 染 症	h M P V ウ イ ル ス 感 染 症
インフルエンザ AH1pdm09型		7				
インフルエンザ AH3型		12 2				
パラインフルエンザ 2型	1					
アデノ 2型	1		1			
アデノ 41型				1		
ヒトコロナ	3					
ヒューマンメタニューモ						2
RS					2	
ライノ	5					
ノロ G2型				2		
合計	2 8	19 2	1 0	1 2	0 2	0 2

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

3月の「菌株同定」依頼は、基幹定点から下痢原性大腸菌3件、肺炎球菌3件、サルモネラ属菌1件、ノカルデア属2件、バルトネラ属1件、カプノサイトファーガ属1件となっており、非定点からは、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌1件の依頼がありました。

保健所からは、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件、インフルエンザ菌2件、肺炎球菌1件、劇症型溶血性レンサ球菌1件等の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、基幹定点からレプトスピラ2件、保健所から喀痰のレジオネラ属菌2件の検査依頼がありました。

小児科定点からは、A群溶血性レンサ球菌4件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(3月)

菌株同定	項目	検体数	血清型等		
医療機関	基幹定点	下痢原性大腸菌	3 EAggEC:O15、病原関連遺伝子不検出:O169、O18		
		肺炎球菌	3 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 型別不能(1)、20型(血液(1)・髄液(1))		
		サルモネラ属菌	1 <i>Salmonella</i> Enteritidis		
		ノカルデア属	2 <i>Nocardia abscessus</i> 、 <i>Nocardia beijingensis</i>		
		バルトネラ属	1 <i>Bartonella henselae</i>		
		カプノサイトファーガ属	1 <i>Capnocytophaga canimorsus</i>		
非定点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	1 <i>Staphylococcus aureus</i> TSST-1産生			
保健所	保健所	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4 <i>Escherichia coli</i> (1)、 <i>Enterobacter cloacae</i> (3)		
		インフルエンザ菌	2 <i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能		
		肺炎球菌	1 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 15型		
		劇症型溶血性レンサ球菌	1 A群溶血性レンサ球菌 T4型		
分離同定	項目	材料	検体数	同定、血清型等	
医療機関	基幹定点	レプトスピラ	血清	1	不検出(nested-PCR)
		レプトスピラ	尿	1	不検出(nested-PCR)
保健所	レジオネラ属菌	喀痰	2	<i>Legionella pneumophila</i> 1群(培養法)	
小児科サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等		
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	4	A群T1(1)、A群T型別不能(3)		

【 微生物検査研究課 細菌担当 】